

講義年月日	2002年12月11日(水)
講演者	高山 正也氏(慶應義塾大学文学部教授)
テーマ	大学図書館経営の見直しと新たなリソース管理のあり方
講義内容	<p>1. 図書館運営の分析視点 図書館運営は経営の一般原則だけでなく、非営利機関としての特性や、使命の重視などの特徴がある。</p> <p>2. 図書館の持つべき機能 Educational Institution、Cultural Organization、Information Resource、Community Center の4つ。</p> <p>3. 図書館の経営過程 ヒト・モノ・カネから経営が成り立ち、サービスを行い、技術革新が行われている。</p> <p>4. 既存の情報サービスの前提 来館利用と閲覧・貸出サービスであり、情報サービスは補助的業務である。</p> <p>5. 情報サービスの目標 Just in Case, Just in Time, Just for You 必要十分な価値ある情報の提供である。</p> <p>6. 情報管理システムの変化 伝統的な図書館から機械化図書館を経て電子図書館へと変化している。</p> <p>7. アクセス概念の拡大 書誌的・物的アクセスから言語的・概念的アクセスへと拡大していく。</p> <p>8. 新・旧サービスの対比 来館利用から非来館へ、検索から創造へ、適合情報から利用者満足の確認へと移っていく。</p> <p>9. 電子化による情報サービスの変化 利用するための装置が必要になるが、速報性にすぐれている。 遠隔利用や同時複数利用などに対応できる。</p> <p>10. 技術の進展と情報サービスの変化 アクセス概念の拡大とサービスの多様化・高度化により、従来の検索理念の終焉を迎える。</p> <p>11. 新たな経営資源 人的資源(これからの職員=ヒト) 情報資源(モノ) 財源とその管理(カネ)。</p> <p>12. デジタル情報によるサービスの変容 情報の流通は著者と読者が相互に関わりあい、図書館はその両者にサービスを提供する。</p> <p>13. 職員の問題：{ヒト} 習得すべき知識(情報の組織化など) 養成すべき能力 期待される能力(職能や資質など)が求められる。</p> <p>14. 情報資源の多様化とそれへの対応：{モノ} 電子出版の普及と対応および蔵書概念の再構築。</p> <p>15. 情報資源のデジタル化 デジタル資料の購読は紙媒体と異なり、アクセス権の購入になるので固定資産の増加につながらない。</p> <p>16. 図書館の財務会計：{カネ} 図書館の資産評価を現金主義から発生主義に転換する。</p> <p>17. 図書館の貸借対照表 将来、図書館の貸借対照表を出すようになった時点で困ることのないよう注意を払う必要がある。</p> <p>18. 図書館のマネジメントサイクル 計画から実行そして評価へとつなげる。計画とマーケティングを行う。業務とサービスの評価をする。</p> <p>19. 図書館会計の現金主義：その問題点 蔵書価値の表示、外部情報資源活用による蔵書空洞化、財源開拓の可能性、とそれぞれを検討しなければならない。</p> <p>20. 図書館の経営管理権 図書館は経営単位になりうるか？</p>
感想	経営という観点から図書館組織というものを考える。また、デジタル技術における情報源の管理についてそのあり方を伺った。特に、図書館が情報を新たに創り出し、評価をしていくという部分には大いに興味を持った。今後の図書館には情報の発信が求められていることを、また、求められるようにすることが重要であることを認識した。
配付物	「大学図書館経営の見直しと新たなリソース管理のあり方」